

# カルロ・スカルパ

## Carlo Scarpa

1906-1978 イタリア

建築家。工芸的な装飾技法と素材感を活かした建築で知られる。幼い頃から大工職人のもとで見習いをしていた経験から、古い工法や素材の扱いにも長けていた。ヴェネチア建築大学では若き日のマリオ・ボッタを指導した。

1906 - 1978 Italy

Architect. He is known for his architecture leveraging handcrafted decorating technique and texture. From his experience as an apprentice of a carpenter as a child, he was proficient in traditional methods of construction and handling of materials. He supervised Mario Botta in his younger days at Università luav di Venezia.

### カルロ・スカルパ

兜形の卓上皿

1977-78年

銀食器



### Carlo Scarpa

Centrotavola a elmo

1977-78

Silverware

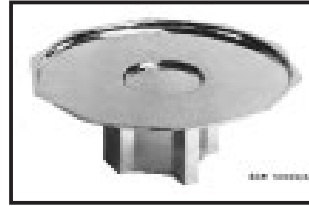
<カルロ・スカルパ建築展 宇宙を夢見た庭 1993年5月20日～8月29日より> スカルパによる銀食器は1977-78年の作品で、ヴィチエンツァ市郊外の小さな工場で作られた。(製作元のクレト・ムナリ社は、この他にもマリオ・ボッタ、マイケル・グレイヴスら多くの建築家に銀食器のデザインを依頼している。

## カルロ・スカルパ

卓上皿

1977-78年

銀食器



## Carlo Scarpa

Centrotavola a elmo

1977-78

Silverware

## カルロ・スカルパ

スカルパがデザインした布  
絹



## Carlo Scarpa

Textiles designed by Scarpa

silk

<カカルロ・スカルパ建築展 宇宙を夢見た庭

1993年5月20日～ 8月29日より>

1962年からの10年間、スカルパはアゾロの街の静けさを好み、ここに仕事場を置いていた。ヴェ

ネツィアからもブリオン家の墓からも30分程度の所だが、そのアトリエに隣合った小規模な織物工場で、スカルパはシルクの布地のデザインを手掛けた。鏡のように裏返しの文字で書かれたスカルパの手紙の文字、立ったままの姿勢で埋葬してほしいと生前に語っていた事、など、工場でスカルパの仕事をした、シレーナ・カロリーヌさんの語るエピソードは尽きない。彼女によれば、スカルパのデザインは、手織りの布地を数センチごとに織り方も色も変える必要があり、注文を受けたときにはかなり『ショックを受けた』と回想する。その贅沢ともいえる手作業の結果、カーテンの、光の透ける部分、透けない部分、また暗いブルー、明るいブルーなど、繊細な織りが実現したのである。